

令和 6 年度（第 1 回）山陽小野田市地方創生協議会会議 会議録	
開催日時	令和 6 年 1 2 月 2 6 日（木） 1 4 時から 1 5 時半まで
開催場所	山陽小野田市役所 本館 3 階 大会議室
出席委員	山陽小野田市地方創生協議会委員 1 1 人 （江田座長、藤田副座長、岡本委員、半矢委員、篠原委員、 竹森委員、中原委員、梶井委員、藤本委員、小原委員、水津委員）
出席職員	（事務局） 企画部長、企画課長、企画課主幹、 企画課政策調整係長、企画課主任主事
協議概要	
1 開会 2 委嘱状交付 3 挨拶（部長代読） 4 委員紹介 5 事務局紹介 6 座長及び副座長選出 座長及び副座長の選出について、事務局から提案することに合意いただいた後、江田委員、藤田委員をそれぞれ座長、副座長にお願いし、承諾され、異議もなかったことから、決定した。 7 議題 (1) 山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和 5 年度の検証についての説明と意見交換 ～事務局が資料 3 について説明～ ○資料 3 の主な質疑応答 基本目標 1：定住に結び付く就業環境を整え“安定した”雇用をつくる 【委員】 この 4 月から A スクエアがオープンし、全国チェーンの飲食店が進出するなど、周辺が変わっていく様子を見てきた。また、今後の賑わい創出についても期待しているところであるが、地元の方がそのエリアで創業したという話をあまり聞かない。商工業の振興の項目の KPI「創業件数」について、その内訳はどうか。	

【事務局】

業種については、飲食関係が3割程度、美容関係が2から3割程度と多い。その他にも電気関係、福祉関係と多種多様な業種が創業されている。
また、A スクエア周辺でいうと、「空き店舗リニューアル補助金」の相談が令和6年度前半に5, 6件あり、関心が高まっていると感じる。

【委員】

人手不足に対する支援、取組はどうか。

【事務局】

ハローワークと密に連携し、建設業、介護・福祉関係、運送業のような人材が不足している業種に絞った就職説明会を実施している。

【委員】

飲食業分野もかなり人手が不足している。

基本目標2：「学びの力」や観光資源等を活かした“魅力”により新しい人の流れをつくる

【委員】

移住相談の件数について、延べ件数か。また、移住につながった件数は。

【事務局】

相談件数については延べ件数である。
令和5年度に市の移住相談を受けて移住された方は、7世帯14人である。

基本目標3：結婚・出産・子育ての希望を実現し“まちへの愛着”をつくる

【委員】

学校教育の推進の項目において、「週に3回以上クラウドを利用した家庭学習を行う児童生徒の割合」が低いがどういった理由があるか。

【事務局】

家庭への持ち帰りについては、推奨しているところだが、小学校の低学年にとっては重量の課題などがある。今後も端末を活用した宿題を出すなど、推進していきたい。

【委員】

この基本目標 3 については、全体的に KPI が悪いが今後の方向性はどうか。

【事務局】

これら総合戦略に係る KPI は、第二次山陽小野田市総合計画中期基本計画における KPI でもある。令和 7 年度までの計画期間となっている中期基本計画の更新と併せて検討していく。

【委員】

期間合計特殊出生率が低くなっているのは、全国的なものか、本市独自の傾向か。

【事務局】

全国値は 1.20 であり、統計開始以来の最低の数値であるため、全国的な傾向である。

【委員】

社会教育の推進の項目における、不良行為少年の補導人数の増加要因はどうか。また、目標数の設定理由はどうか。

【事務局】

警察署から提供してもらっている数字であり、増加要因までは分からない。目標数については、目標設定年度における補導件数の平均数から設定している。

基本目標 4：持続可能で元気な“住みよい”地域社会をつくる

【委員】

芸術文化によるまちづくりの推進の項目において、KPI「文化財をテーマとした地域・学校との連携事業の参加者数」が令和 4 年度から令和 5 年度で減少している理由は何か。

【事務局】

令和 4 年度が突出した人数である。これは、令和 4 年度は「ふるさと文化遺産」の登録をした翌年であり、その周知に力を入れた活動を行ったためである。令和 5 年度については、「ふるさと文化遺産」の登録に向けた準備期間のため、周知活動が減少した。歴史民俗資料館では、継続的な周知活動を行っている。

【委員】

令和 6 年度の 1,000 人という目標は達成できそうか。

【事務局】

令和 5 年度に比べて増加している。今後も達成に向け努めていきたい。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金事業の進捗及び重要業績評価指標（KPI）についての説明と意見交換

～事務局が資料 4 について説明～

○資料 4 の主な質疑応答

【委員】

KPI「アクティブトラッカー等のデジタル機器を活用する中で、健康状態が改善した人数」について、3 年目の目標人数が 2 年目よりも少ないのはなぜか。

【事務局】

スマートウォッチを装着する人数の目標を、1 年目 30 人、2 年目 100 人、3 年目 150 人としている。各年の新規で装着した人数の 8 割を目標としているためである。

○(1)、(2)を通した意見交換

【委員】

会議（第一回山陽小野田市地方創生協議会）の主旨である令和 5 年度の検証をこの 12 月に行うことについて、実施時期は適切か。令和 7 年度へのフィードバックへの懸念がある。

【事務局】

例年この時期の実施となっていることについて、今一度開催の時期を検討させていただく。

【委員】

資料 4 について、KPI「週 1 回以上運動する市民の割合」が 70 %とある。どう周知、集計しているのか。

【事務局】

市全体で推進している「スマイルエイジング」の取組の中で、様々な部署が周知している。その中の全市的な目標として 70 %を目指している。

【委員】

資料3における「4 持続可能で元気な“住みよい”地域社会をつくる」について、KPI「本市に住み続けたいと思う市民の割合（アンケート調査）」のアンケートは全市民が対象となっているのか。

【事務局】

無作為抽出で、3,000 人を対象に行っている。

【委員】

「住み続けたい」と回答するなかには「住まなければならない」といったマイナスな意味も含まれるのではないかと感じる。「住みよい」とは意味合いが違うのではないか。

【事務局】

確かに同じ「住み続けたい」という回答であったとしても、回答者の設問の受け取り方、回答者の状況によっては、多様な根拠があるように思う。意図する設問が作れるよう今後も研究していく。

【委員】

地区運営協議会（RMO）について、今年9月に11地区で立ち上がった。令和7年4月から活動が開始される。それぞれの地区はそれぞれ特徴があるので、市から全地区統一した活動を求めるのではなく、自主性を重視し、側面から応援していただけるとありがたい。

各地区には、自分たちの地区を自分たちで盛り上げていく意識がある。私の地区でも、地域の活性化のため、団らん（飲食）できる施設が欲しいとの声も聴いており、経営等難しいところがあるが、地域で推進していきたいと考えている。

【事務局】

地区運営協議会（RMO）については、それぞれの地域で「地域づくり計画」を作成し、地域の想いの実現のため取り組んでいただいている。実際に、主体的に取り組もうとアイデアを出し合いながら考えてくださっている。その点はしっかり尊重していきたい。

8 その他 特になし。

9 閉会

以上